

第 22 号

1997年 3 月

岡山県古代吉備文化財センター

▲ 西江遺跡（哲西町）出土特殊器台文様



旦山遺跡航空写真（写真提供 堀家純一氏）

県北流通センター建設に伴う発掘調査終了

岡山県古代吉備文化財センターでは真庭郡久世町の県北流通センター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査を平成6年11月から2年5ヵ月の間進めてきましたが、この3月をもってすべて終了しました。調査した遺跡数は7遺跡におよび、それらの遺跡から整理箱にして約450箱の遺物が出土しました。また、該当する時代も縄文時代から江戸時代までの多岐にわたっており久世

町域の歩みをたどるためにも有益な資料になることが予想されます。ここではそのうちの今年度調査分の旦山遺跡を中心に概観したいと思います。

旦山遺跡は、目木川東岸の丘陵上に立地し、目木の集落はもとより五反台地や旭川も眺望できる位置にあります。今回の調査で検出された遺構・遺物には、縄文、弥生、古墳、奈良、室

町の各時代のものがあります。

縄文時代に関しては、底部中央に杭痕跡を残す穴や、底部がすり鉢状にしぼむ穴がみつかりました。これらはいずれも動物を捕獲するための落とし穴として掘られたと思われます。遺物は後・晩期の土器や石鏃(石で作ったやじり)があります。

弥生時代に入ると、後期を中心とした竪穴住居や土壙(穴)が多く分布するようになります。竪穴住居は50軒程あり、その中には直径10mを超える大形のものも2軒あります。竪穴住居の多くは、頻繁に拡張されたり縮小されたりしていることが、土の堆積状況や壁体溝と呼ばれる住居内の床の外側を巡る溝状のくぼみが、複数本存在することなどから確認することができました。平面形は円形と方形があります。住居内からは壺・甕・高杯といった土器をはじめとして石包丁・砥石・石鏃等の石器、鉄鏃(鉄で作ったやじり)等の鉄器、勾玉・管玉・ガラス玉、土玉(土で作った玉)等の装身具、といった多様な遺物が出土しました。



弥生時代の円形竪穴住居(北東から)

また、住居の下層や周辺には土壙が分布しています。土壙にも円形と方形があります。円形の土壙には、断面の形はフラスコのように口の部分が底に比べて狭いもの、底部に溝状のものを巡らすもの、中央にピットをもつものなどがあります。一方の方形の土壙は、底が平らなものや四隅にピットがあるものがあります。これらの土壙の多くが、食料などを保管する倉庫(貯蔵穴)と思われます。その数は100基以上をかぞえ、住居からの豊富な出土遺物とあわせて比較的裕福な集落だったことが想定されます。

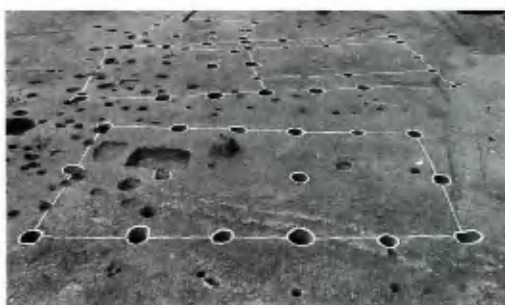
また、土壙からも多くの土器が出土しています。その他には壺・甕・鉢をまねて作られたミニチュア土器や分銅形土製品(分銅の形をした土製品で人間の顔などが描かれている)が出土しました。

古墳時代中頃の5世紀には古墳が1基築かれます。この古墳は、一辺9m四方の規模をもつ方墳(正方形の形をした古墳)で板状の石を箱のように組み合わせて作った棺(箱式石棺)が作られていました。石棺の周囲は粘土で覆われ、底部には2~5cm程の小石を敷いていました。

奈良時代の遺構は掘立柱建物3棟と土壙が1基です。掘立柱建物の柱穴や土壙からは須恵器(縄文土器や弥生土器と比較して硬く焼かれている土器で、その技術は今から1500年ほど前に朝鮮半島から日本に伝わりました)の甕や杯が数点出土しました。

室町時代の遺構としては、掘立柱建物3棟と土壙1基が存在します。掘立柱建物の柱穴から鉄釘が5点、土壙から渡来銭13枚がそれぞれ出土しました。それらの渡来銭はすべて宋や明(宋は平安時代から鎌倉時代、明は室町時代から江戸時代に中国大陸で興った王朝)から渡ってきた銭貨でした。また、掘立柱建物の周辺からは備前焼のすり鉢や瀬戸か美濃で焼かれた天目茶碗、明の青磁碗も見つかりました。

以上が今年度調査した旦山遺跡の概要です。なお、周辺の遺跡(先旦山遺跡・野辺張遺跡・水神ヶ崎遺跡)では江戸時代の墓も確認されており、これらの成果も含めると目木川東岸には縄文時代以降現代に至るまで、人々の生活があったことが明らかになりました。(蛇原啓介)



室町時代の掘立柱建物群(北から)

センターの年間事業 (平成8年度)

調査第一課

1996年度、調査第一課は2係15名により、埋蔵文化財の普及啓発、報告書の整理・刊行、発掘調査等の事業に対応しました。

普及啓発事業は、8月8・9日の両日に小学校の高学年を対象に「少年少女考古教室」。9月23日に市町村教育委員会の協力を得て「最近の岡山県における埋蔵文化財発掘調査概要の報告会」。平成9年1月24日には県下市町村の「埋蔵文化財担当職員研修会」を開催しました。これらの事業では埋蔵文化財とは何か、また埋蔵文化財をとりまく現状と課題について理解していただけるよう努めました。

報告書の整理は県立岡山工業高校実習棟の改築(伊福定国前遺跡)、県立大学の建設(窪木遺跡2)、山陽自動車道建設(津寺遺跡5・大岩遺跡ほか)に伴った遺構、遺物の整理をそれぞれ調査員1名、2名、7名の割合で行いました。

報告書の刊行は、県立大学建設に伴う報告書「窪木遺跡1」、山陽自動車道建設に伴う報告書「津寺遺跡4」、国道429号改良に伴う報告書「前山遺跡・鎌戸原遺跡」、県営邑久町圃場整備事業に伴う報告書「下笠加遺跡」をそれぞれ実施しました。

発掘調査事業は8頁一覽表の1～17遺跡を第一係デスク担当4名(内1名は文化課本務)が対応しました。このうち、国道、県道の関連工事に伴うものが11件、県営圃場整備事業に伴うもの2件、高校実習棟の改築、駐在所建設等に伴うもの4件です。とりわけ、小規模な開発行為への対応が中心であるため、限定された範囲の発掘に止まり、遺跡の全体像を把握することが難しいのが現状です。

今回は、真庭郡八束村下長田に所在した水別遺跡と邑久郡邑久町下笠加に所在する下笠加遺跡について紹介します。

〈水別遺跡〉 一般県道別所下長田線(公)雪寒(凍雪害防止)事業に伴い、水別1号墳、2号墳、3号墳の発掘調査を行いました。これらの古墳は、高さを減じながら南に延びる尾根上に近接

して造られており、いずれも南東に開口する横穴式石室を埋葬主体部とするものです。1号墳は墳丘径約7mの円墳であり、両袖式の石室内から大刀、小刀、耳環、玉類、須恵器が出土しています。2号墳も墳丘は同規模であり、無袖式の石室内から刀子、耳環、玉類等が出土しています。3号墳は石室の遺存状況が悪く、出土遺物は認められませんでした。これら3基の古墳は6世紀後半から7世紀初頭にかけて築造されており、1号墳では追葬が8世紀頃にも行われたことが判明しています。調査後は八束村によって2基の古墳1・2号墳が四ツ塚史跡公園内に移築復元されています。今後、山陽および山陰両域の横穴式石室の関係を研究する上で貴重な資料となります。



水別1～3号墳調査風景(東から)

〈下笠加遺跡〉 県営邑久町圃場整備事業に伴い、国庫補助を受けて事前の確認調査を行いました。遺跡は邑久町西端に沿って南流する吉井川とJR赤穂線に挟まれた沖積平野部に位置します。工事予定面積40.8ha内に2×5mのトレンチを40か所設定し、旧河道と三か所の微高地を明らかにすることができました。東の微高地は古くから安定しており、縄文時代晩期、弥生時代前期の土器が出土しています。弥生時代中期中頃にはサヌカイト製の石器(100点以上)を多量に含む竪穴住居の一部が検出されました。吉井川に近い西の微高地、および南の微高地では中世を中心とする遺構、遺物が発見され集落の一端を覗がうことができます。

他に阪神・淡路大震災の復旧、復興事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査に調査員1名の派遣を行っています。(高畑知功)

調査第二課

調査第二課が行いました今年度の発掘調査・報告書作成作業は、第一係が三室川ダム建設に伴う大成山たたら遺跡群の調査を2班体制（6名）で、県北流通センター建設に伴う旦山遺跡の調査を1班体制（3名）で、第二係は国立岡山病院建設による笹ヶ瀬川調節池建設に伴う田益田中遺跡の調査を2班体制（6名）で、また平成6年度の確認調査から平成7～8年度に全面調査を行ったグリーンヒルズ津山建設に伴う発掘調査の報告書作成を2名で行ってきました。

大成山たたら遺跡群は、阿哲郡神郷町湯野字大成にある中世から近代にかけての製鉄関連の遺跡群です。4基が検出された製鉄炉地下構造は、それぞれの示す異なった特徴が時期差を表すものと考えられ、いわゆる高殿たたら貴重な資料となりました。県下での初例となる大鍛冶炉は29基が確認され、このうちの2基を切り取り保存することになりました。秋には現地説明会を開催し、町内をはじめ県外からも多くの方が参加されました。その後、一字一石経塚1基を調査し、雪のため調査を中断し、来年度は高殿遺構2ヶ所を中心に調査を行う予定です。



大成山たたら遺跡群
高殿たたら地下構造（西から）

旦山遺跡は真庭郡久世町中原の、目木川を西に望む比高約30mの丘陵上にあります。中国横断自動車道(米子道)久世インターチェンジのすぐ南西に位置する所です。これは県北流通センター内の遺跡群の調査で、今年度中に調査を終了する予定です。調査では弥生時代後期の集落跡を中心として縄文時代から中世にいたる遺

構・遺物が検出されています。詳細については今号(1・2頁)を参照していただくとして、縄文時代の落とし穴、弥生時代後期の約50軒の竪穴住居、200基以上の貯蔵穴などを検出しています。竪穴住居の中には直径10mを越えるもの、それに近い大きさのものが数軒検出されています。竪穴住居・貯蔵穴内からは多くの土器をはじめ石器、鉄製品、分銅形土製品、ガラス小玉、勾玉、管玉が出土しています。そのほかに箱式石棺を主体部とする古墳1基、奈良時代・室町時代の掘立柱建物6棟などが調査されました。

田益田中遺跡は昨年度から引き続いて調査を行っています。昨年は上池調査区だけの調査だったのですが、今年度は新たに下池調査区の調査が加わりました。下池調査区は、山陽自動車道の南側で笹ヶ瀬川に挟まれた所です。調査区のは半分は笹ヶ瀬川が東から南西方向に流路を変える部分にあたり、その影響を大きく受けていたために、弥生時代の基盤層は東側の一部にしか見られませんでした。ここでは弥生時代後期から古墳時代初め頃の北東から南西に併行した溝8条が検出され、これは山陽自動車道建設の時に調査した溝の方向と一致するようです。またこの下層には縄文時代晩期と考えられる幅約20m程の自然河道が東西に検出されました。

上池調査区は、山陽自動車道の北側で国立岡山病院建設予定地の西側から内田川までの所にあたります。この地点は西から東に伸びる丘陵縁辺部から、田又池のある谷の出口部分にあたります。北西部では弥生時代前期から古墳時代初め頃の竪穴住居の一部や土壇、井戸、柱穴、溝等が検出されました。この東側は昨年度も検出されていた、古墳時代後期から弥生時代前期の溝が蛇行しながら北から南に向けて流れています。このうち弥生時代後期の河道内からは、杭列により水をせき止めた堰が検出され、また、弥生時代前期の河道の中からは人面を表現した土製品が出土しています。この目と口のまわりには入墨を想定される文様が見られます。下層からは縄文時代後期の自然河道が1本、縄文時代前期の土器を包含する下層にも自然河道が1本検出されています。(伊藤 晃)

調査第三課

本年度の調査第三課の事業は、旭川放水路(百間川)改修に伴う発掘調査と報告書「百間川兼基・今谷遺跡3、百間川沢田遺跡4」の刊行、苦田ダム建設・雇用促進住宅建築・岡山陸運支局検査場改築・岡南共同溝建設・県道(箕島・高松線)改良・県立津山高校改築にそれぞれ伴う発掘調査、国立岡山病院建設・国道429号線拡幅にそれぞれ伴う発掘調査と報告書整理、おかやまファーマーズ・マーケット建設に伴う発掘調査と報告書「小中遺跡ほか」の作成・刊行、国道2号線バイパス建設・都市計画道路(万成・国富線)建設に伴う報告書作成、岡山調整池建設に伴う報告書「寺山古墳群・大日幡山城出丸跡」の作成・刊行、中国横断道(総社工事区)建設に伴う報告書「藪田古墳群ほか」の刊行をそれぞれ実施しました。

旭川放水路の調査は、昨年に引き続いて岡山市百間川米田遺跡を年間を通じて行いました。昨年と同様、微高地端部に古代から中世の貝塚や杭列を伴う大溝が検出され、椀・皿・鍋などの多くの日常雑器、白磁も出土しています。

苦田ダムの調査は、苦田郡奥津町内の城ヶ峪城跡・札ノ尾遺跡(市場散布地)・久田上原城跡・河内城跡・久田原遺跡・夏栗遺跡・河内遺跡について、年間事業で実施しました。そのうち、市場散布地・久田原・夏栗・河内の各遺跡は範囲確定のためのトレンチ調査を行ったうえ、夏栗・河内の両遺跡を除いて本調査に入りました。

なかでも河内・城ヶ峪両城跡の保存状態がよく、とくに丘陵尾根のほぼ全体を調査した河内城跡は、犬走りや堀切り、郭などの南北朝期の全貌を明らかにすることができました。そして、城ヶ峪城跡の丘陵北裾の鞍部から古墳時代後期の製鉄炉の下部構造や弥生時代後期の竪穴住居も確認され、城以前の遺構の存在も注目されます。また、札ノ尾遺跡は近世の建物などが検出され、伴出する鋳滓が銅滓であることから銅生産の作業場の可能性もあります。久田原遺跡は墳丘と石室のほとんどを削平された5基の古墳(6-7世紀)の発見とともに、奈良時代の円面

硯、中世の赤地の織物の一部などの出土が特筆されます。

国立岡山病院の調査は、岡山市田益の田益田中遺跡を昨年に引き続いて4月から12月まで実施しました。調査地区全体におもに弥生時代前期の溝や小土壙が多数見つかっています。昨年の調査と同様、その約1m下面には縄文時代後期の河道が部分的に認められています。河道の底の遺物は比較的少量でしたが、遺構的には弥生前期、縄文後期ともに昨年調査した遺構との繋がりが促えられるなどの成果が得られました。

雇用促進住宅の調査は、岡山市原尾島遺跡の一角を4月から8月まで実施しました。おもに弥生時代後期後半から中世にかけての遺構が検出され、なかでも古墳時代後半期の複数の溝から、土器を中心として多数の遺物が出土しています。ほかにも、未製品を含む滑石製白玉や子持ち勾玉、鉄生産関連の鉄鉱石や炉壁・鉄滓・フイゴの羽口なども出土していて、注目されます。(詳細は本書第21号参照)

おかやまファーマーズ・マーケットの調査は、勝田郡勝央町小中遺跡を4月から6月まで実施し、弥生時代中期から後期の竪穴住居8軒、段状遺構約20基などの集落遺構が検出されています。

県道(箕島・高松線)の調査は、岡山市津寺の津寺一軒屋遺跡の一部を7月から9月まで行い、弥生時代の旧河道と近世水田を検出しました。

国道429号線の調査は、総社市井手の金井戸・見延遺跡を10月から12月まで実施し、弥生時代から中世の竪穴住居・掘立柱建物・土壙・溝などが比較的多く検出されています。

岡山陸運支局の調査は、岡山市藤原の藤原遺跡の一角を8月から9月まで実施し、弥生時代後期末の水田跡や古墳時代の溝、中世の掘立柱建物などが検出されています。

岡南共同溝は、岡山市大雲寺交差点の南東角を10月から12月まで調査し、弥生時代後期水田と近世の屋敷の一部分が明らかになりました。

県立津山高校は、津山市椿高下の十六夜山遺跡の立会調査を2・3月に行いました。

(柳瀬昭彦)

大成山たたら遺跡群出土の一字一石経 —三室川ダム—

今年度、三室川ダム建設に伴って発掘調査を実施した大成山たたら遺跡群では、一字一石経塚1基が発見されました。

斜面を削った平坦面に二つの埋納坑が設けられ、これを埋めてさらに地上に盛り上げられた経石の周りを2段の石組み基壇で整形し、その上に経碑が立てられていました。

一字一石経とは、河原石のような小さな礫石に、経文を一字ずつ墨書したもので、ここでは硬貨大から握りこぶし大の扁平なものが選ばれています。その量は整理箱で200箱を超え、おおよそ5万個以上はあると思われます。

文字が消えかかって読み取りにくいものもありますが、ほとんどの石には楷書で比較的丁寧に書かれた文字が残っています。その文字を見ていくと、旧字体のものもあれば新字体のものもあり、同じ文字でも種々の書体が見られるほか、書写した人のくせまでも浮かび上がってきます。これらを勘案すると、少なくとも5人の

書き手がいたと認識されます。

一般に一字一石経の原経として用いられることが多い「法華三部経」の場合、構成する全文字数82,681字、使用される漢字数1,852字で、文字ごとの頻度には1回しか使われないものから最多の「佛」1,699回まで大きな差があります。現在は、今回出土した経石を一つずつ点検し、「法華三部経」と対比対照する作業を行っています。(光永真一・真壁雅樹)



出土した一字一石経石

津寺遺跡出土の土製仏 —山陽自動車道—

岡山市の西端に位置する津寺遺跡は、弥生時代から近世まで続く集落を中心とした遺跡で、山陽自動車道の建設に伴い1986年から発掘調査が行われ、現在は整理作業を行っています。

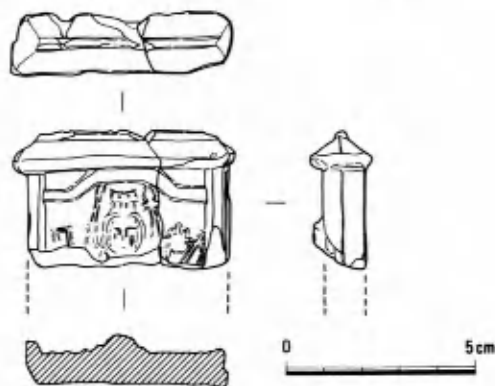
今回紹介する土製仏は、近世の墓域内の土壌から出土したもので、伏見人形の影響を受けた土人形に類するものです。

残存する大きさが縦36mm、横56mm、厚さ13mmで下半分が欠けていますが、像容と弓、矢、宝珠などの持ち物から弁財天像と考えられます。

型づくり成形の技法を用い、表型と裏型の二つの型でそれぞれ作った生地を接合して成形した後、窯で焼成したようで、ドロキラと呼ばれる離型材の雲母も表面に残っています。

類例を探すと、大阪の堺環濠都市遺跡で同じ型で作られたと見られるものがやはり近世の墓域から出土しており、欠けていなければ縦が約68mmの弁財天座像であることがわかりました。

弁財天は、財宝の神や芸能の神とされたり、水神として祀られるなど人々から広く信仰の対象とされており、この土製仏も伏見人形などと同じように、社寺の門前で売られ、参詣した人々が買い求めて祀ったものではないかと考えられます。(山本晋也)



津寺遺跡出土の土製仏 (1/2)

普及啓発事業から

I. 埋蔵文化財担当職員研修会

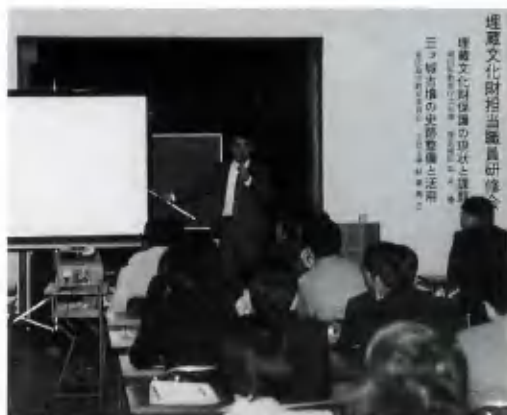
この研修会は、県内各市町村の埋蔵文化財保護行政を担当している事務職員を対象として、県下の埋蔵文化財保護の進展を図ることを目的としたものです。当センターでは隔年でこの研修会を開催していますが、今年度は34市町村45名の参加を得て、1月24日に行いました。

講師には、東広島市教育委員会社会教育課主任主事妹尾周三氏と、岡山県教育庁文化課課長補佐平井勝氏を迎え、ご講演いただきました。

平井氏は、「埋蔵文化財保護の現状と課題」と題して文化財保護の基本理念を講演の初端として、県内における現状を説かれました。また、発掘調査の実施基準および積算基準についての説明を行われました。

妹尾氏は「三ッ城古墳の史跡整備と活用」と題し、東広島市が行った古墳の史跡整備事業についてスライドを交え、史跡の活用方法の取り組

み方を紹介していただきました。特に、市町村主体で取り組む整備事業は興味深いものであり、また、その活用のあり方は参加者の注目するところとなったようです。（大橋雅也）



妹尾周三氏の講演

II. 現地説明会・スライド報告会

今年度の現地説明会は、岡山市原尾島遺跡、奥津町河内城跡、神郷町大成山たたら遺跡群の3つの発掘現場で開催しました。いずれの説明会にも県下全域から100人を越す参加者を得ることができ、写真や図面といった調査記録だけでなく、参加していただいた方々の記憶にも遺跡の姿を残すことができたと思っています。



三室川ダム現地説明会（11月2日）

最近の発掘調査の傾向として、文字や絵図といった昔の人々の生活している様子を伝える史料が残っている時代を発掘調査する機会が増えています。今回もそういった時代の中世の山城と中世～近代の製鉄遺構で説明会を開きました。今後はこういった史料と遺跡の状況を比較検討しながら当時の人々の生活をより鮮明な姿で復元していき、地域の歴史に役立てて行きたいと思っています。

スライド報告会は毎年夏頃に岡山市内で行っていますが、当文化財センターの発掘調査のほか、県下市町村で調査された遺跡についても報告し、県下の各地域の状況を紹介しました。

発掘によって出土した遺物は、当文化財センター1階の展示室に常設展示と別にミニ速報展として一部展示していますので、お気軽に足を運んでください。（杉山一雄）

岡山県古代吉備文化財センター発掘調査一覧表 (平成8年度)

遺跡名	所在地	調査原因	種別	遺跡の内容	調査期間	調査面積
1 高松沼田遺跡	岡山市高松原古才	県立高松農業高校産業教育実習棟改築	全面	中世の集落	4.17-5.22	236㎡
2 米田遺跡	岡山市米田	洪水防除事業東岡山地区導水路	確認	中・近世の散布地	12.18	37㎡
3 中井散布地	岡山市中井町	都市計画道路万成国富線建設	確認	弥生・中世の水田	5.21-5.22	90㎡
4 中井遺跡	岡山市中井町	都市計画道路万成国富線建設	全面	中・近世の河道	2.3-2.7	40㎡
5 岡山城間遺跡	岡山市弓之町	岡山地方振興局建替え	確認	近世の岡山城間遺構	10.1-10.4	34㎡
6 上東遺跡	倉敷市上東字宇田	県道筑島高松線建設	確認	弥生-近代の集落・水田	1.7-1.28	180㎡
7 上東遺跡	倉敷市上東	県道吉備津松島線建設	全面	古代・中世の集落	12.3-12.25	480㎡
8 金井戸・見延遺跡	総社市井手	国道429号線改良	全面	弥生-中世の集落	5.13-6.20	160㎡
9 門之川散布地	笠岡市新賀字門之川	笠岡警察署新賀駐在所建設	確認	中世の集落	11.13	18㎡
10 美作国分寺開遺跡	津山市国分寺崎谷	一般県道金屋国分寺線整備	確認	弥生・中世の散布地	12.3	18㎡
11 下笠加遺跡	邑久郡邑久町下笠加	県営邑久町団地整備事業	確認	弥生-中世の集落	11.11-1.21	400㎡
12 塚地遺跡ほか	浅口郡勢町地頭上	主要地方道矢掛寄島線改良	確認	弥生-中世の集落、古墳	7.16-8.2	248㎡
13 石塔敷散布地ほか	真庭郡真庭町有井	真庭町県営団地整備	確認	弥生-古墳時代の集落	4.17-5.7	156㎡
14 水別遺跡	真庭郡八束村下長田	一般県道別所下長田線(公)雪害事業	確認	古墳	4.22-4.23	30㎡
15 水別遺跡	真庭郡八束村下長田	一般県道別所下長田線(公)雪害事業	全面	古墳・旧石器散布地	6.24-9.30	400㎡
16 室尾石生谷口古墳ほか	当田郡加茂町大字青柳	主要地方道津山智頭八束線改良	確認	古墳	9.25	96㎡
17 矢田条里	勝田郡勝田町久田	主要地方道美作奈義線建設	全面	中・近世の水田	10.15-11.15	530㎡
18 田益田中遺跡	岡山市田益	笹ヶ瀬川調節池建設	全面	縄文の河道、弥生-古墳の溝	4.1-3.31	13,100㎡
19 且山遺跡	真庭郡久世町中原	県北流通センター建設	全面	弥生の集落	4.1-3.31	7,400㎡
20 大成山たたら遺跡群	阿智郡神崎町油野	三室川ダム建設	全面	中世-近代の聚落、近世の庭家	4.1-12.27	8,688㎡
21 田益田中遺跡	岡山市田益	国立岡山病院建設	全面	縄文の河道、中世の集落	4.1-12.24	9,945㎡
22 原尾島遺跡	岡山市藤原光町	雇用促進住宅岡山宿舎建替え	全面	弥生-近世の集落・水田	4.1-8.31	1,772㎡
23 百間川米田遺跡	岡山市米田	旭川放水路(百間川)改修	全面	古代-近世の集落・貝塚	4.1-3.31	7,857㎡
24 津寺一軒家遺跡	岡山市津寺	県道筑島高松線改良	全面	古代-近世の旧河道	7.1-9.18	355㎡
25 藤原遺跡	岡山市藤原	岡山陸運支局検査場レイアウト変更	全面	弥生-中世の集落・水田	8.1-9.30	150㎡
26 天瀬遺跡	岡山市東中央町	岡南共同溝建設	全面	弥生・近世の集落・水田	10.1-12.31	120㎡
27 金井戸・見延遺跡	総社市井手	国道429号線改良	全面	弥生-中世の集落	10.1-12.24	780㎡
28 十六夜山遺跡	津山市橋高下	県立津山高校改築	立会	遺構・遺物なし	2.17-3.4	720㎡
29 小中遺跡	勝田郡勝央町岡	おかやまファーマーズマーケット建設	全面	弥生時代の集落	4.8-6.7	1,534㎡
30 河内遺跡	苫田郡奥津町河内	苫田ダム建設	確認	古代の集落	1.21-1.30	20㎡
31 城ヶ崎城跡	苫田郡奥津町久田下原	苫田ダム建設	全面	中世の城郭	4.5-12.6	16,000㎡
32 久田原遺跡	苫田郡奥津町久田下原	苫田ダム建設	確認	縄文-中世の集落	11.1-11.28	500㎡
33 夏栗遺跡	苫田郡奥津町久田下原	苫田ダム建設	確認	縄文-近世の集落	12.3-1.10	600㎡
34 市場散布地(札ノ尾遺跡)	苫田郡奥津町久田下原	苫田ダム建設	確認	近世の集落・生産地	7.1-7.29	400㎡
35 札ノ尾遺跡	苫田郡奥津町久田下原	苫田ダム建設	全面	縄文、近世の集落	11.1-3.18	2,560㎡
36 久田原遺跡	苫田郡奥津町久田下原	苫田ダム建設	全面	縄文-近世の集落	1.13-3.18	1,555㎡
37 久田上原城跡	苫田郡奥津町久田上原	苫田ダム建設に伴う湖岸道路建設	全面	中世の城郭	7.1-7.29	705㎡
38 河内城跡	苫田郡奥津町河内	苫田ダム建設に伴う湖岸道路建設等	全面	中世の城郭	9.2-2.28	7,410㎡

編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-01
岡山市西花尻1325-3
電話 (086)293-3211

●交通案内

- ・JR山陽本線庭瀬駅下車タクシー10分
- ・JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分
- ・JR岡山駅下車岡電バス岡山駅前より
神道山行終点下車徒歩5分
- ・山陽自動車道岡山総社ICより15分

